

理学部学位授与方針

学修成果

「学士(理学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

1. 専門とする科学の分野において、基礎的な原理、法則、理論を理解し応用することができる。
(「2. 専門性」と関連)
2. 専門に隣接する科学の分野についても概括的な知識を持ち、広い見方ができる。(主に「2. 専門性」、その他「5. 他者を理解する姿勢」と関連)
3. 自然や社会の現象について理論モデルを設定し、それを評価することができる。実験系においては、実験から得られるデータを分析して、その実験の内容と結果の有意性を評価することができる。(主に「2. 専門性」、その他「9. 社会的実践力」と関連)
4. コンピュータを科学の問題を解決するための、そして、情報発信のための道具として活用することができる。(「2. 専門性」「6. 表現力」と関連)
5. 専門とする科学の分野において英語で書かれた基礎的文献を読むことができる。(「2. 専門性」「8. 国際性」と関連)
6. 科学における課題を解決するために他人と議論でき、その過程と結果を論理的に文章として表現することができる。また、それを他人にわかりやすく説明することができる。(「2. 専門性」「6. 表現力」「9. 社会的実践力」と関連)
7. 社会の中での科学の役割を理解し、自然や社会の現象を論理的に考察することができる。
(「1. リベラルアーツの素養」「2. 専門性」「5. 他者を理解する姿勢」「9. 社会的実践力」と関連)

※()内は「立教大学学士課程教育の学位授与の方針」に定める学修成果項目との関連を記載。

さらに全学共通科目により、

8. 言語 A の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。
9. 言語 B の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュ

ニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。

10. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。

11. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。